

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|----------------|
| 施設番号 | 66-1496 |
| 施設名 | タムスわんぱく保育園一之江 |
| 施設所在地 | 江戸川区一之江2-19-12 |
| 法人名 | 社会福祉法人春和会 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「異文化交流」

<テーマの設定理由>

インクルーシブ保育、高齢者交流を行うなど多様性を育む保育環境を活かし、異なる言語や文化に対する興味関心を広げたいと考えた。

2. 活動スケジュール

- ・外部講師を招き、月1～2回英語遊びを楽しむ。
- ・対象：3歳児～5歳児クラス。各歳児に合わせて活動時間を設定。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ネイティブの先生を招き、あいさつや簡単な会話、歌や遊びを通して本物の外国語に触れる。
- ・ネイティブの先生との関わりを通して、子どもたちは肌の色や目の色、髪の色など、外見の違いを特別視するのではなく、“違いを知ること”“相手に興味をもつこと”の楽しさにつなげ、多様に親しむ経験となるようにする。
- ・保育室に多文化コーナーをつくり、遊びを通し多国に触れる環境設定を行った。
英語の絵本・世界のパズル・国旗カード・人形・地球儀等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・英語の歌に合わせて身体を動かしたり、カードを使ったりしながら日本語以外の言葉に触れる
- ・名前、好きな色、食べ物、どうぶつ等簡単な単語を自分の言葉やジェスチャーで「伝わる楽しさ」を感じる
- ・国旗カードや世界地図パズルを使用し、遊びを通じてさまざまな国があることを知る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

最初は「hello」と挨拶をされても数名が小さな声で応え、緊張している様子が見られたが、保育者が「hello」と講師と挨拶を積極的にしていくことで、徐々に保育者を真似て挨拶をするようになった。また、講師の英語での問いを保育者が日本語に置き換えて伝えることで英語に親しみ講師との距離が縮まっていった。簡単な単語を覚えていくと、日常の中でも色や果物等の英語表現が聞こえるようになった。

また、国旗カードや地球儀が身近にあることで「この国ではどんな挨拶をするのかな？」という子どもたちの発信をきっかけに、世界のさまざまな挨拶にも興味を広げながら、異文化への関心を深められるよう取り組むことができた。

＼「日本ってこんなに小さいの!？」／



＼「おはようってなんていうんだろう!？」／



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

英語が身近になると、子どもたちは国旗や地図だけでなく「これは英語でなんて言うんだろう?」と言葉や挨拶にも興味を広げていることが分かった。また、外国人講師から聞く英語であったことで、子ども同士のやりとりのなかで発音が異なることに気づき、本来の英語という「ことば」にも関心を向けていた。

自ら世界への関心を深めようとする姿が見られ、遊びや会話を通した学びの広がりを感じることができた。今後も子どもたちの気づきや疑問を大切にしながら、さまざまな文化に親しめる活動につなげていきたいと思った。